

# 委託事業実施内容報告書

## 平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

### 【ボランティアを対象とした実践的研修】

受託団体名 にほんごの会くれよん

#### 1 事業の趣旨・目的

近年「地域日本語活動」は学習者と支援者が対等な立ち位置で、ともに作り上げる「相互学習」が大切だといわれる。しかし、「生活から独立した言語としての日本語を教える」ことを目的とした養成、研修を受けてきたボランティアにとって、「相互学習」を概念として理解することはできても、その概念を活動の中で生かすことは難しい。

本事業では、毎回視点を変えた6回の講座を通して、これまでの自分の活動方法を振り返ると同時に、相互学習、「ともに学ぶ」活動を組み立て、実践し振り返ることで、参加者に「教える」から、「ともに学ぶ」への気づきを促す。

#### 2 企画委員会の開催について

##### 【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
4月8日	目黒区男女 平等・共同参 画センター	石原弘子 茂木真理 青柿千枝子 荒明美奈子 飯塚 睦 佐々木倫子 吉田聖子	運営委員顔合わせ	自己紹介をし、この講座の目的は何かを確認。参加者は講座内容の振り返りを書き、また実践の報告を書くことによって得られたことの共有化を図る。参加者の条件。チラシなどを検討
5月20日	目黒区男女 平等・共同参 画センター	石原弘子 荒明美奈子 飯塚 睦 佐々木倫子 吉田聖子	研修前の準備 講座参加者の姿勢 ・講座の振り返り ・活動記録	この時点での参加申し込み状況を確認 ・研修初日までの仕事の分担 ・受講者各自の記録の方法などについて意見を交わす。

12月9日	目黒区男女 平等・共同参 画センター	石原弘子 茂木真理 荒明美奈子 飯塚 睦 佐々木倫子 吉田聖子	会計担当より  6回の講座について  講座進行について	会計の確認について 運委委員各自の振り返 りと反省を話し合う 1. 2月の講座をどう進 めたらよいか話し合う。
2月10日	目黒区男女 平等・共同参 画センター	石原弘子 茂木真理 荒明美奈子 飯塚 睦 佐々木倫子 吉田聖子	全講座終了  委託業務完了報告書  冊子作り	講座終了に伴い運営委 員会の反省。毎回の振 り返りシートや100を超 える実践活動報告から 考えてみる 講座終了に伴い、会計 報告、委託業務完了報 告書などの記載につい て話し合う 冊子作成案に基づき、 分担を決め、今後の予 定について話し合う
2月24日	目黒区男女 平等・共同参 画センター	石原弘子 茂木真理 荒明美奈子 飯塚 睦 吉田聖子	文化庁提出書類  報告書「冊子作り」	提出書類各項目の見直 しをし、修正等の分担 印刷から参加者への配 布までの予定について 確認

【写真】



### 3 研修講座の内容について

- (1) 研修講座名 にほんごボランティア実践的研修講座 「教える」から、「ともに学ぶ」へ
- (2) 研修の目標
- ①受講者の到達目標は、「ともに学ぶ」型の活動を自分で意識的に計画し、実行する力を身につけることをめざすことである。
  - ②研修全体の到達目標は、複数の地域で共通して使える研修モデルの作成と、広域で連携した研修システムの構築をめざすことである。
- (3) 受講者の総数 43人(内チーム参加7)  
(出身・国籍別内訳 日本 42人, 中国 1人)
- (4) 開催時間数(回数) 40時間 (12回以上)
- |       |               |
|-------|---------------|
| 研修・講義 | 32時間(全 8回)    |
| 実習    | 8時間以上(全 4回以上) |
- (5) 参加対象者の要件
- ・現在、東京都内で、地域日本語教室のボランティアとして活動していて、修了後、自団体の研修活動に積極的に関わる意志のある、日本語ボランティア。2年程度かそれ以上の経験があること
  - ・講座からの学びを生かした実践を8時間以上行い、報告会に出席できること
  - ・全回参加が原則だが、2、3人でチームをつくり、交代での受講も可
- (6) 受講者の募集方法
- チラシ配布(各運営委員の活動地域で活動中のボランティア対象)
  - ウェブサイト利用(東京都国際交流委員会イベントカレンダー、東京日本語ボランティアネットワーク イベント掲示板)
- (7) 研修会場
- ア 講義 中目黒スクエア会議室(7回)、下目黒住区センター会議室(1回)
- イ 実習 受講者各自の所属教室
- (8) 使用した教材・リソース
- ◇ 各担当講師作成の資料とスライド、
  - ◇ 『外国人と対話しよう! にほんごボランティア手帖』 凡人社
  - ◇ CEFR 日本語版 国際交流基金

- ◇ JF 日本語教育スタンダード 2010 国際交流基金
- ◇ 『みんなの日本語 初級 I、II』 スリーエーネットワーク
- ◇ 『いっぽ にほんご さんぽ 暮らしの日本語教室初級1』  
スリーエーネットワーク
- ◇ 『にほんごこれだけ！1』 ココ出版
- ◇ 国勢調査 外国人向け やさしい日本語版 総務省
- ◇ レベル別日本語多読ライブラリー にほんごよむよむ文庫 レベル0～5  
(株)アスク
- ◇ 「生活者としての外国」に対する日本語教育の標準的カリキュラム案について  
文化審議会国語分科会
- ◇ 調査研究「生活のための日本語」  
大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立国語研究所

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
6月19日 10:00～ 12:00	「教える」から、「ともに学ぶ」へ／オリエンテーション 参加者同士の基本情報を共有	講師なし 講座提案者 石原 弘子 講座コーディネーター 吉田 聖子	37名
6月19日 13:00～ 15:00	地域日本語教室におけるボランティアの役割／	東海日本語ネットワーク副代表 米勢 治子	37名
7月3日 10:00～ 15:00	「対話中心の活動」の勧め ／「対話中心の活動」について学び、自分の実践活動へ取り入れる方法を考えた	東海日本語ネットワーク副代表 米勢 治子	39名
8月21日 10:00～ 15:00	Can-do-statements 「～を知っている」から「～ができる」へ／講座というより自ら考える時間となった。「ことばの勉強」につい	AJALT 会員 品田 潤子	32名

	てさまざまな視点から学んだあとで「課題の達成に必要な言語とは？」という問いかけからスタートし、実際に Can-do 目標プログラムをたててみた		
9月4日 10:00～ 15:00	「生活者としての外国人」と文法「教科書が悪い」ではなく・・・／まず「教えない」ことについてお互いの認識を確認した。次に「コミュニケーション力」と文法力の関係について学び、「文法学習」と「対話活動」の融合について考えた	AOTS 関西研修センター 澤田幸子	38名
10月2日 10:00～ 15:00	リライトを生かした「読む」活動／ともに楽しみ語り合うための「読み」。学習者が同じ情報を共有し話し合える場を作るための「リライト」を学んだ。外国人向けのやさしい日本語で書かれた「国勢調査」を題材に、「ともに学ぶ」リライト活動を行った	日本語多読研究会 代表 栗野真紀子	39名
11月20日 10:00～ 15:00	「いつもの活動にスモールチェンジを！ －調査結果を活用して－」 ／小さなワークをたくさん積み重ねながら、自分自身の活動を振り返る方法を学んだ。さらに、課題解決に向けての方策を検討する方法を、課題を順に解いていきながら学んだ。さらにこの実践活動の振り	学習院大学 教授 金田智子	34名

	返りを題材に、代替案の組み入れ方を考えたり、公的な情報を材料に自分の活動にスモールチェンジを取り入れる方法を考えた。		
1月15日 10:00～ 15:00	共有のための発表 -その具体的な手順と方法 -／6回の講座を振り返り 研修の目的を再確認した。他の受講者の「教える」から「ともに学ぶ」へを意識した実践の記録を読み、グループで活動記録の在り方を学び合った	講師 なし 講座コーディネーター — 吉田聖子	31名
2月5日 10:00～ 15:00	報告会 スモールチェンジの報告と 講座の振り返り、 これから、どうする／グループごとに自分たちのテーマに沿った「ともに学ぶ」実践活動を考え、お互いにポスター発表をおこなった 「『教える』から『ともに学ぶ』へ」を意識した実践とは何かを、各自で、グループで、所属団体ごとに考え、今後のネットワーク作りに向けて情報の共有を行った	桜美林大学言語教育研究所 所長 佐々木倫子	30名

#### (10) 講座の評価

本項では、実施団体及び実践活動現場を有する運営委員を実施主体として記述する。

##### ① 参加者に対するアンケート

講座最終日に参加者30名に対して行い、29名より回答を得た。

質問項目

A) この講座にどうして参加しましたか

運営委員・所属団体および参加者からの勧め(18) ボランティア活動を振り返りたかった(5) テーマに関心があった(3) ボランティア活動をもっとするため(3)

B) 「教える」から「ともに学ぶ」へ はあなたの期待に沿ったものでしたか  
沿っていた(29)

C) 感想

- ◆ 皆さんとのコミュニケーションができて、良かったです。この講座に参加でき、勉強になりました。これからもボランティア活動に生かしたいと思います。
- ◆ 他の市や区の方々の活動、地域性等いろいろな活動を知る事もできて良かったです。スタッフの方々のご尽力に感謝いたします。振り返りシートがよかったと思いました。
- ◆ 大変活気があり、面白く、講座を受けることができましたが、進み方が速いのと、もう少しじっくり考える余裕が欲しかったです。
- ◆ 週一回のボランティアという活動の中で、なかなかその活動を振り返る時間的、精神的余裕が無く、忙殺されていた。しかし、少しでも実りあるものにするためにも一回、一回振り返る必要がある事、反省しています。自分の気持ちの持ち方からスモールチェンジしたいです。
- ◆ このように長い月に、そして1日も長い時間、講習をするということは出席者にとって有意義なもので、これからもこのような講習をしていただきたいと思っています。
- ◆ 今回の講座で学んだことをもとに、これからの活動に生かしていきたい。
- ◆ この講座に参加したおかげで日本語教育学会の動向などにも関心を持つようになりました。ありがとうございました。
- ◆ 受講するのも来るのも全出席するのも大変と思っていましたが準備から後始末、そして次の流れ、まとめと“スタッフ”のみなさまありがとうございました。おかげさまで勉強になりました。これをふまえて、活動していきたいと思っています。
- ◆ 日頃の活動を振り返るよい機会にもなりました。ありがとうございました。
- ◆ 私事ですが、実践活動で学習者の話しを「傾聴、確認する、待つ」ことを意識してやっているとき、母の介護で病院に1週間缶詰になる機会がありました。その際、母に対しても上記の気持ちを持って対応することで、無事乗り切ることができました。思わぬ効用でしたが二重にお礼を申し上げます。
- ◆ 今回のようなやり方で「何年も日本に滞在していて日本語が十分でない人」に対する「ボランティアの在り方」「日本語教室の授業のやり方」を知りたい。
- ◆ とても良い講座でした。「教える」から「ともに学ぶ」は常に身に滲みて感じて

いることでした。

- ◆ このような会があることを知り得たこと、また参加出来たことは私の宝となりました。皆さまのご活躍を祈ります。
- ◆ 日常の活動から離れて分りにくい部分もあった。
- ◆ 理解できないところもありましたが、楽しく講座を受けることができました。ありがとうございました。
- ◆ 運営の皆さま、お世話になりました。実践活動シート記入についてのアドバイスをいただきとても助かりました。講座に参加することができ、良かったです。
- ◆ ここで学んだことを周囲の日本語ボランティアに伝えていくわけですが、自分の活動に満足してしまっている化石化した日本語ボランティアをどう引き込むか今後の課題です。
- ◆ ボランティア人材を増やすためにも、そうした活動の入門書的なものを自治体窓口に置く等、もっと広報活動を積極的にやるべき
- ◆ 他のグループの方達と話し合うことができよかったです。講座にはいろいろな活動があり、これまでの活動を振り返るよい機会となりました。
- ◆ 今までを変える難しさ、変えたつもりがいちばん危うい、そのことを気付かせてくれた講座でした。

## ② 実施主体からの研修内容結果評価

- ◇ 実施主体は講座終了後の活動の変容や受講者の疑問などに直接触れることにより次回講座の内容について外部専任講座コーディネーターへ「今、私たちに必要なこと」を伝えることができた。
- ◇ ウチとソトの複合的視点からプログラムをつくることが、講座に深みを持たせることにつながったのではないか。
- ◇ 毎回受講者の一人として参加し、課題を遂行する中で、受講者の気持ちを共有できた。それが以降の講座の難易度の調整、方法などのスモールチェンジにつながった。
- ◇ 最新の地域日本語教育事情をテーマに組み立てた講座は受講者に理解が難しいという側面もあり、今後の講座内容、その伝え方にさらなる配慮がもとめられる。

## ③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

- ◇ 実施主体の「にほんごの会くれよん」では従来より学習者が社会の中で積極的に生活できるよう、橋渡しとなるように外国絵本の読み聞かせ活動や育児情報誌の発行などを行ってきた。今後もこれらをボランティアと学習者がそれぞれが

できることを協働してより発展的に継続していく。

◇ 次年度は新たに中国帰国者への日本語学習支援を目黒区の委託事業として行うこととなっている。

◇ 町田国際交流センターでは、「共に学ぶ」の実践をボランティア全員に伝達し、外国人の社会参加を推進していく。

田無国際交流サークルでは今回の講座で得たことを全体に報告し、自分の活動と照らし合わせ、振り返ってもらうことをスタートとしたい。

## (11) 事業の成果

### ① 他事業との連携

本研修開始後、運営委員および受講者の所属する団体および該当地域国際交流協会等から、本講座の趣旨に基づいたボランティア養成講座、ブラッシュアップ講座のプログラム作成および講師派遣を求める依頼が多数あった。運営委員が中心となり以下のような内容で事業協力を行った。(一部抜粋)

依頼団体	依頼内容	実施内容	実施時期	協力者
にほんごの会 くれよん	ボランティア研修講師依頼	「対話中心の活動」— コミュニケーションカ —	2010 年 11/13	講座コーディネーター： 吉田聖子、 茂木真理、 本講座受講者1名
田無国際交流 サークル	研修報告	本講座内容の紹介と 参加体験の報告	2011 年 4月 (予定)	運営委員： 飯塚睦 本講座受講者7名
(財)町田市文化・国際交流 財団町田国際 交流センター	日本語教室ブラッシュアップ 講座 講師依頼	「ゼロビギナーへの対応」対話中心の活動を やってみる	2010 年 7/13	講座コーディネーター： 吉田聖子、 運営委員： 荒明美奈子

同上	日本語教室ブラッシュアップ講座 講師依頼	新日本語能力試験をどうとらえるか	2010年 11/10	講座講師： 金田智子、 運営委員： 荒明美奈子
同上	日本語学習支援ボランティア基礎講座 講師依頼	地域日本語支援ボランティアの目的と役割	2010年 11/6	講座コーディネーター： 吉田聖子、 運営委員： 荒明美奈子
(財)目黒区国際交流協会	ボランティア研修講座 講師依頼	「楽しもう！日本語ボランティア」地域日本語教室におけるボランティアの役割	2010年 12/4	講座コーディネーター 吉田聖子、 本講座受講者4名
同上	ボランティア研修講座 講師依頼	「教室活動の活性化」スモールチェンジ、「標準化カリキュラム案」と「全国調査の結果」をみる	2011年 3/12(地震により延期)	同上
東大和市市民生活課	ボランティア養成講座6回	実践的研修モデル2010	2010年 12月17日～1月28日	講座コーディネーター 吉田聖子、 本講座受講者4名

## ② 研修後の人材活用

研修参加者が所属団体で本研修で学んだことを反映した活動を行うことにより、新しい日本語支援の在り方を他のボランティアへ広げる核となる。

既に本講座参加者全員が次年度の研修委員を引き受けた団体もある。

## ③ 受講者の目標 3 (2)①参照

各回の講座を受講し、実践するという過程を繰り返すことで、受講者ひとりひとりが自らの活動を振り返り、講座で得たものを活動に生かす試みを実施することができた。これは100通以上の実践活動の記録が参加者より提出されたことから明らかである。

る。

#### ④ ネットワーク形成

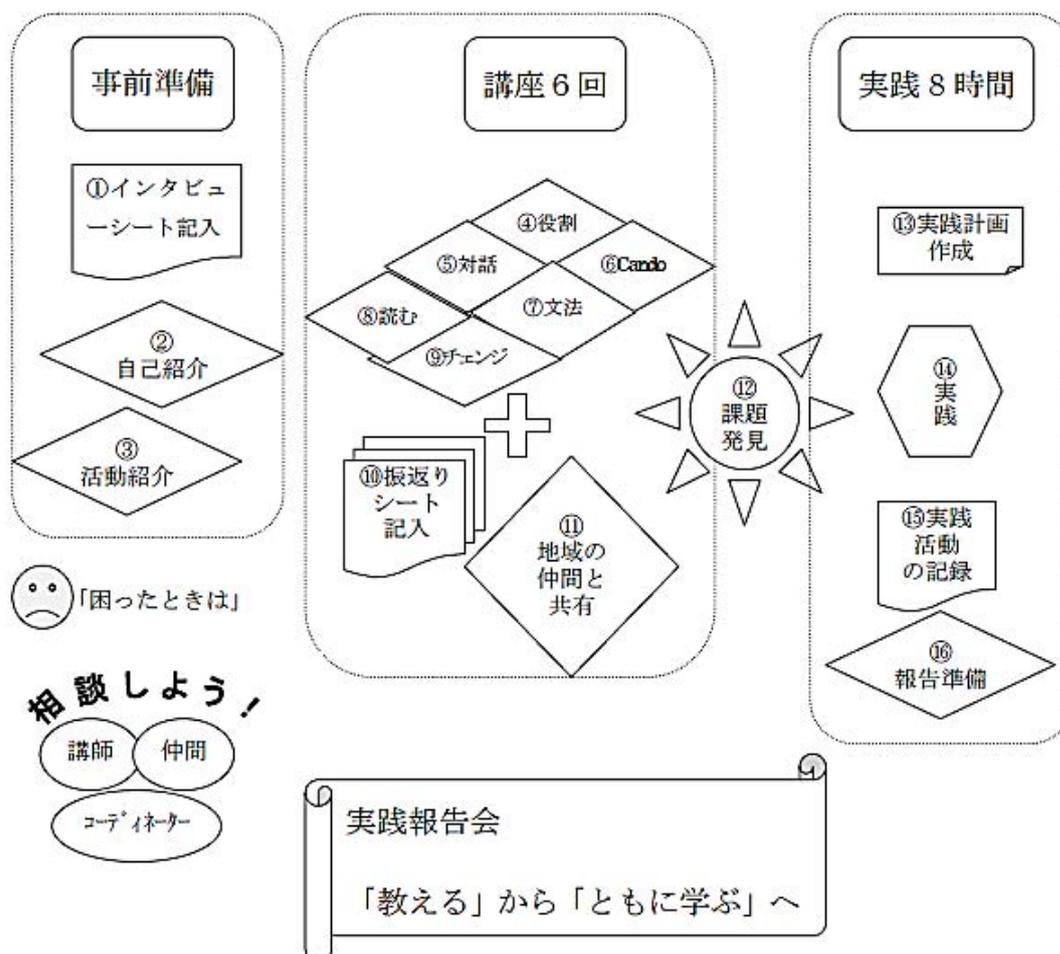
研修を通して生まれた新しいネットワークから、上記①のような協働が生まれた。上記以外にも、他団体の活動を見学しボランティア同士の交流を持つ、ほかの団体の研修に参加する、など、地域を超えた新しい動きが報告されている。

#### ⑤ 研修モデルの作成 3 (2)②参照

この研修全体の到達目標である、複数の地域で使える研修モデルを作成した。

### 実践的研修モデル2010

キーワード：日本語ボランティアを「知る」「やる」「考える」「伝える」



## (12) 今後の課題

- ① 活動年数の長いボランティアが多かったにもかかわらず、所属団体の活動の中で講座から学んだことを継続的に実践しよう、あるいは同じ方向で研修を実施しようとするとき、団体の中に十分な数の理解者がいないと、実効性が乏しいことが分かった。このため次年度も引き続き同じ体制で講座を開催し、ここに経験年数の比較的短い受講者が参加することで「ともに学ぶ」活動の理解者を増やし、次年度以降各団体の自立を促したい。
- ② 受講者の活動現場での聞き取り調査などから、とくに活動経験の短いボランティアにとって、入門期の外国人参加者と対話を成立させることが難しいということがわかった。このため次年度は講座の受講対象者を経験年数 2 年程度とし、また講座の中に入門期の外国人参加者を対象とした内容を組み込む必要がある。

## 2010 年度文化庁委託事業 参加者募集

にほんごボランティア実践的研修講座

# 「教える」から、「ともに学ぶ」へ

「地域日本語活動」は学習者と支援者が、共に作り上げる「相互学習」だといわれていますが、実際にどのようにすればよいのでしょうか。

「ともに学ぶ」型の活動をめざして、講師や参加者から、学び、実践し、報告し、楽しい“にほんごボランティア活動”をつくりませんか。

目黒、西東京、町田、都内3か所の団体が呼びかけ人となりました。  
地域の状況や活動の形態にとらわれなくて、  
“にほんごボランティア活動”とはなにか、いっしょに考えましょう。

あなたのご参加をお待ちしています！

6月～2月 講座8回+実践活動  
裏面日程表をごらんください  
原則、第1土曜日 10時から3時  
(昼食休憩1時間)

中目黒スクエア9階 (目黒区中目黒 2-10-13)

無料

定員 先着30名(保育あり)

締切 6月7日(月)

<参加条件>

- ★ 現在、東京都内で、地域日本語教室のボランティアとして活動していて、2年程度かそれ以上の経験のある方を優先
- ★ 講座からの学びを生かした実践を8時間以上行い、報告会に出席できる方
- ★ 全回参加が原則ですが、2、3人でチームをつくり、交代での受講も可能です。

参加希望の方は、①名前、②住所、③団体名、④ボランティア歴、⑤電話、あれば⑥メールアドレスを下記申し込み先へおしらせください。開始日までに受講票をお送りいたします。



中目黒スクエア

東急東横線・東京メトロ日比谷線、中目黒駅から徒歩10分

中目黒駅の改札口を出て、目の前の横断歩道を渡り、山手通を右に進みます。

駒沢通りを越えて200メートルほど進んだ所の左手にあります。

### 研修講座運営委員会

茂木真理、石原弘子 (目黒区・にほんごの会くれよん)  
飯塚 睦 (西東京市・田無国際交流サークル)  
荒明美奈子 (町田市・町田国際交流センター)  
吉田聖子 (東京外国語大学 多言語・多文化教育研究センター)  
佐々木倫子 (桜美林大学言語教育研究所)  
青柿千枝子 (東京都国際交流委員会)

<申し込みおよび問い合わせ先>

吉田聖子 (よしだせいこ)  
080-5502-7549、  
akebono1455@ezweb.ne.jp

	月日	講師(所属)	講師からのメッセージ	題目・内容
1	6/19 10:00 ~ 12:00	石原弘子 (にほんごの会くれよん)  吉田聖子(東京外国語大学 多言語・多文化教育研究セ ンター)	「多文化共生社会で外国 人との付き合いとはなに か」私の思いをお話しし ます。 この研修は参加者全員で 作り上げていきます。ま ず、参加の動機を共有す ることからスタートします。	講座の目的 オリエンテーション
	13:00 ~ 15:00	米勢治子 (東海日本語ネットワーク)	地域日本語教室と呼ば れている場では活動形態も 方法も多様です。自分達の 活動を再確認してみましょ う。	地域日本語教室におけ る ボランティアの役割
2	7/3	米勢治子 (東海日本語ネットワーク)	「対話」に必要なコミュニ ケーション力とは何かを考え ます。	「対話中心の活動」の勧 め
3	8/21	品田潤子 (AJALT)	今日本語で何ができるの か？少し学ぶと何ができ そうか？「日本語ででき ること」を少しずつ増やし ていける活動を考えます。	Can-do-statements 「～を知っている」から 「～ができる」へ
4	9/4	沢田幸子 (AOTS 関西研修センター)	地域日本語教室では「文 法」をどのように捉え、ど のように扱えばいいのか、考 えてみましょう。	生活者としての外国人」 と文法「教科書が悪い」 のではなく・・・
5	10/2	粟野真紀子 (日本語多読研究会)	やさしい日本語からどん どん読めば、日本語の力 がついてくる！～学習者 向け「読みもの」で、学 習者を支援しませんか？	リライトを生かした「読 む」活動
6	11/20	金田智子 (学習院大学)	いつもの活動にどこか物 足りなさや不安を感じる… 。教室の中と外に目を向 け、一歩踏み出してみま しょう。	「いつもの活動にスモ ールチェンジを！ - 調査結果を活用して -」
地域別実践活動 それまでの講義をヒントに、実際の活動を見直し実践を行ったり、自分の地域で自主勉強会を行ったりして、その様子を報告シートにまとめます。				
7	2011 年 1/15	茂木真理 (にほんごの会くれよん)  吉田聖子(東京外国語大学 多言語・多文化教育研究セ ンター)	「伝えたいことは何か」 自分の考え、思いをことば に 表し発信する方法、そして 相手の伝えたいことを受け 止める方法を考えます。	共有のための発表 -その具体的な手順と方 法-
8	2011 年 2/5	佐々木倫子 (桜美林大学言語教育研究 所)  茂木真理 (にほんごの会くれよん)  吉田聖子(東京外国語大学 多言語・多文化教育研究セ ンター)	お互いの活動報告を聞き 合い、考えたこと、思った ことを共有しましょう。 最後にもうひと踏み張り、 これからの行動計画を立て てこの講座は終了です。	報告会 スモールチェンジの報告 と講座の振り返り、 これから、どうする